

照陽の家だより

〒683-0812

米子市角盤町3-124-3

TEL 0859-21-8151

ひなたぼっこ保育園の日常

5月の風が清々しい季節となりました。コロナ禍ではありますが季節の変わらぬ到来に喜びを感じるこの頃、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？

今月もひなたぼっこ保育園 園児は元気一杯遊んでのびのびと成長しています。



買い物体験



相撲大会



ボール遊び

好きなものを選んで食べれる！ ショッピングジョブ！



誰もが生活に欠かせない買い物。病院から退院するも以前のように体が動かないことから自分で好きなものを選択して行動するということが制限されている方が多くおられます。その中で「好きなものを買って食べたい」という希望からスタッフの見守りで移動方法や距離、疲労の評価および下見を行いながら買い物ジョブを実施しました！みなさん「大好きなカステラがあって家での楽しみができた」「たくさん買ったのに1週間で食べた」など喜びの声を頂きました。（作業療法士）

照陽の家には訪問看護ステーションハートケアがあります。

訪問看護とは看護師がご自宅を訪問し看護ケアを提供し療養生活を支援するサービスです。

☆事例検討 ～ 地域の見守り体制の重要性 ～

近年、地域における世帯状況として一人暮らしの方、また高齢者世帯がさらに多くみられます。照陽の家は地域包括ケアシステム推進の中、「住み慣れた地域、自宅でいつまでも尊厳を受けて生活する」事を目標に在宅看護介護活動をしています。その中で、今後、さらに独居世帯、また医療依存度が高い方の在宅支援が課題となっています。照陽の家の利用者様も独居でキーパーソンとなる方の存在が薄い方、経済的にも困窮され施設入所は困難な方、認知症の進行状態にあり周りから見れば施設入所されれば安心と思われる状態でも、本人は慣れた自宅でいたいと強く希望される事例など数々あります。先日の事例検討会でのキーワードは「地域の方の協力を得た見守り体制」です。照陽の家は立地する自治会に住民として入会しています。365日稼働する事業所も夕方から夜間にかけて全ての利用者様の見守りには限界があり出来れば地域住民の方と協力して声を掛け合える体制作りが重要であると感じています。コロナ禍、中々、顔を合わせる機会が少なくさらにお互いが孤立していく現状ではありますがこの体験を通してさらに事業所が地域の一員として住民の方々と連動し見守り体制が構築でき「地域の助け合いを取り戻す機会」になれば、と願っています。

今月の言葉 人生はいつも これからやってくるもの
重要なのは明日なのです。

～ホセ・ムヒカ～

春の外出



毎年参加している伯太チューリップ祭りに今年も参加できました！



境港に着港 あがき2号船の大きさにびっくりでした！



粟島神社 藤の花、神社につながる石段で記念撮影。藤も綺麗、新緑が多く絶景でした！

